

認定特定非営利活動法人 防災・減災サポートセンター

ぼうさい・げんさい News Letter

被災者ゼロを目指して

2023.1.1発行（年4回） No.3

防災・減災サポートセンターの目的

この法人は、不特定多数の市民・団体に対して、科学技術分野で助言・提案を行い、社会教育、地域づくり、地域安全、災害救援の支援、科学技術の振興の寄与に関する事業を行い、もって公益の増進と自然災害の防災・減災に寄与することを目的としています。

活動報告

2022 10/29（土）

①第6回運営会議

（日立システムズホール仙台）

2022 12/3（土）

①第7回運営会議

（日立システムズホール仙台）

2022 10/8（土）～10/18（火）

ベトナム、ラオカイ省での草の根防災支援
（ベトナム、ラオカイ省）



避難訓練の座学（赤、黄色のベストは班編成用の色分け）

今後の予定

NPOパンフレット第4版作成 印刷・配布
2023年1月

第8回運営会議 2/11（土）15時～17時
日立システムズホール仙台 会議室1

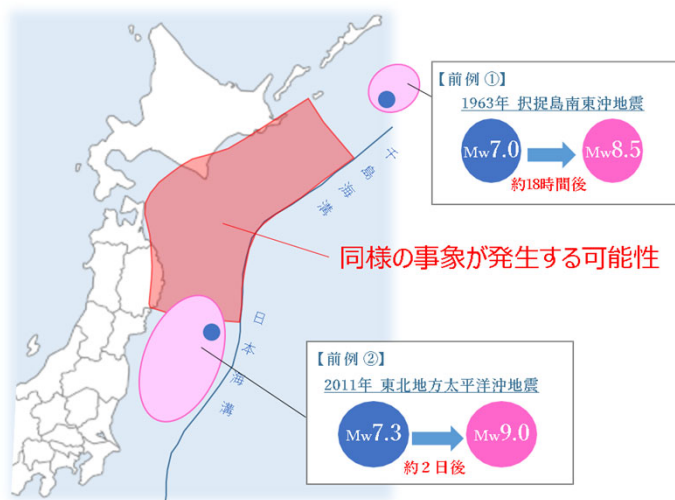
防災実験器具の整備・充実
PS実験装置、液状化実験等

防災に関するニュース

北海道・三陸沖後発地震注意情報について

2022年12月16日から「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発表されることになりました。内閣府防災情報のページで、この注意情報について解説されています。簡単にご紹介します。

日本海溝・千島海溝沿いの領域で、過去に発生したM(マグニチュード)7クラスの地震の後に、さらに大きな地震が発生したことを考慮し、このような地震の



過去の後発巨大地震の発生事例

内閣府HPより

https://www.bousai.go.jp/jishin/nihonkaiko_chishima/hokkaido/index2.html

発生に備えた注意情報を出すということです。先に発生した地震を先発地震、後の地震を後発地震と呼んでします。対象の範囲は、北海道から千葉県までの広い範囲です。しかし、後発地震がいつも先発より大きいとは限りませんし、続いて起きるということも、どれくらいの時間で起きるのかもわからないのが現状です。

(1963年の択捉島南東沖地震では、先発に続いて18時間後にM8.5の後発地震が発生し、2011年の東北地方太平洋沖地震では、先発の2日後にM9.0の後発地震が発生しました。)

いずれにしても、地震への日ごろの備えは物心両面でしておく必要があります。詳しい説明は、下記の内閣府HPを参照。

(https://www.bousai.go.jp/jishin/nihon/kaiko_chishima/hokkaido/index.html)

知るシリーズ

旧石器時代の黒いダイヤ

日本人は、約4万年前に3ルートで大陸からの渡来をしたということが知られています。最初の集団はどの程度の規模で？どんな方法で？のなぞに対して、遺跡調査や様々な分析方法で相当なところまで知見が集積されてきています。その旧石器時代の遺跡は国内で1万を超えるほど多数発見されていますが、旧石器人である先人（現生人類）はどんなところを住処にして活動範囲を広げていったのでしょうか。

最初は、自然環境の中で安全なところを遊動しながら、食料と水を確保することに腐心したものだと思われそうですが、そこで不可欠になるのが石器です。つまり、石器は大変重要な暮らしのツールで欠かせない道具だったわけです。当時は、現在の東日本の大部分が寒温帯針葉樹林域(図-1)でしたから植物性のものよりも動物が重要な食糧源で、そのためにも狩猟用石器が必要だったのです。その石器は、緻密で硬質かつ割れたところが鋭利というのがポイントとなります。

ということになると、黒曜石、安山岩、チャート、珪質頁岩などが対象となります。最初は転石や河川の流域での堆積物からの拾得だったのですが、やがて上流の分布域にたどり着くことになります。そして、その中でも最も期待されたのが黒曜石で、これこそが黒いダイヤなのです。実際に、この黒曜石は様々なところに流通していたことが遺跡で確認されていて、中には神津島から海を渡ってきたものもあり、どのように発見され、どんな航海法で運ばれたのか驚きます。それほど貴重で大事なも

のであれば、その産地の近くに一大集落ができてよいような気もしますが、生活の拠点は台地において、遠い黒曜石の産地を往還(図-2)していた例もあります。

しかし、暮らしの環境は石器が絶対ではなく、他に様々な優越する条件が選択の判断になった、ということかもしれません。これは想定ですが、その条件で食料や水は欠かせませんが、加えて台地などの地形地質にあったのではないかと考えています。台地は広く平坦だし、見晴らしが利いて河川にも近くそこをベースキャンプにして行動する、というのが基本型ではなかったのか。そこでは自然現象も穏やかで、被害を避けることができることを学習したために、まずは安全、安心なところを確保したような気がします。

先人は、丘陵地や台地が安全・安心なことを経験知として、河口付近や扇状地のような地表の変化の激しいところは暮らしのエリアから避けていたのかもしれません。なお、黒曜石は、ガラス質の色が黒くて、つやつやしていて割れ口は貝殻状(図-3)です。似た成分のものにピッチストーン、松脂岩、真珠岩というのがありますが、良質で量的にも満足する黒曜石の分布域(図-4)は多くはありません。信州黒曜石産地の和田峠は有名ですが、宮城県内でも迫川上流の湯の倉や秋保町馬場の土蔵のものが周辺の遺跡から発見されていますがその分布は限られているようです。また、仙台市の旧石器時代の富沢遺跡から出土した石器の材質は頁岩、流紋岩、凝灰岩、安山岩で黒曜石は発見されていません。

■ 関東地方における石器石材産地の分布 (国武良寛「石材と行動」より)



下総台地の旧石器人は良質な石材を近くで獲得できなかったため、利根川上流(黒色緻密質安山岩)・宇都宮丘陵(流紋岩)・高原山(黒曜石)や会津盆地(珪質頁岩)・関東西部(チャート・珪質頁岩)・南房総(珪質頁岩)等の間を往還していた。

図-1 関東地方における石器石材の分布
佐藤宏之(2019): ヒスカルセクション「旧石器時代」 敬文社

■ LGMにおける日本列島の植生 LGM・最終氷期最盛期 (last glacial maximum)



図-2 LGMにおける日本列島の植生
佐藤宏之(2019)：ヒスカルセクション「旧石器時代」 敬文社



図-3 黒曜石石器の写真
堤 隆(2011)：「列島の考古学 旧石器時代」、河出書房新社

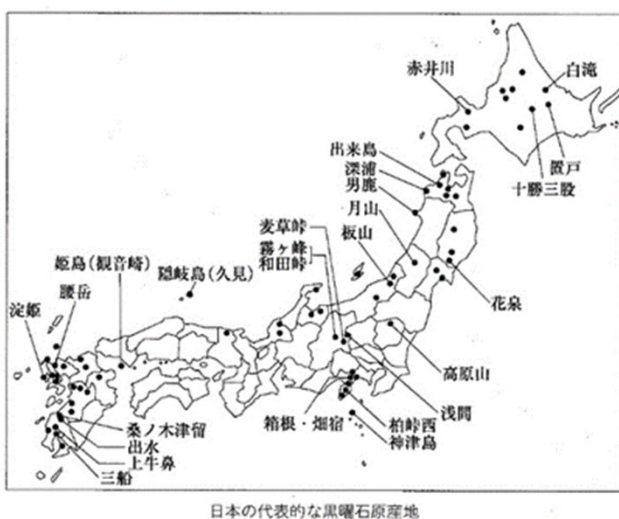


図-4 日本の代表的な黒曜石原産地
堤 隆(2004)：黒曜石3万年の旅 (NHKブックス)

実践シリーズ「緊急安全確保」が出るまでは余裕？

大雨などが続くとさまざまな危険な状況が刻々と変化してきますが、その都度さまざまな情報が発信されます。「緊急安全確保」という言葉を豪雨時によく聞くことが多いと思います。

当初は、「緊急安全確保」という言葉を聞いて、もう遅いのではないかと思いました。災害時の緊急という判断は、かなり危険な領域に入っていて、何らかのこれまでと異なる行動をしなければならない状況であるということです。この言葉は、刀がさやから抜かれている状況ではすでに遅しという感じがしました。また、実際に被害にあわれた人の中には、この情報があるまではそんなに緊迫感がなく、まだ大丈夫なのだと思っていたそうです。

この「緊急安全確保」というのは、災害が発生しそうな時に、市町村が住民の身を守るために最終的なものとして行動を促すもので、避難指示よりも上の段階ということになります。

したがって、避難指示の段階で避難することが望ましいわけです。「緊急安全確保」が出た段階では、避難場所への移動は無理なので、今いるところでより安全なところとか、ごく近隣の安全度が高いところへ移動することになります。なお、この「緊急安全確保」は、事前の策でなく必ず発令されるものではありませんので、この発令を待ってからなどということは絶対に避けなければなりません。

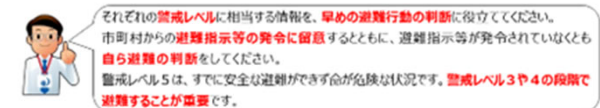
つまり、避難指示が出たら早急に避難行動に入るということになりますので、日ごろからその備えと、できるだけ早期に行動するということが心掛けていただきたいものです。

決して自分に都合の良い勝手な判断は避けて、空振りになっても身の安全は自らの行動にある、ということを日ごろから頭に入れておくことが大切だと思います。

政府は災害発生危険度を5段階で区分して、その時の状況で様々な方法で発信していますが、まずは、何らかの初期の段階の情報で早めの行動をするということと、自分の住む地域のリスクをあらかじめハザードマップや過去の被害などで知っておくことが必要となります。



内閣府防災ホームページパンフレットから一部抜粋



警戒レベル	住民がとるべき行動	市町村の情報	気象庁等の情報
5	命の危険 直ちに安全確保！ すでに安全な避難ができません。命が危険な状況。いまだに危険な場所や安全な場所へ高ちに移動する。	緊急安全確保 いまだに危険な状況です。	大雨 特別警報 災害切迫 避難発生情報
4	危険な場所から 全員避難 自宅から、避難場所が手近な場合は、避難場所へ高ちに避難してください。	避難指示	土砂災害 警戒情報 危険 避難危険情報
3	危険な場所から 高齢者等は避難 高齢者等は外出の必要に迫られ、避難行動に不安を感じるため、避難の準備をとり、自主的に避難する。	高齢者等避難	大雨警報・ 洪水警報 警戒 避難警戒情報
2	自らの 避難行動を確認 大雨・洪水・土砂災害の発生に備え、避難行動を確認してください。	大雨注意警報・ 洪水注意警報	注意 避難注意情報
1	災害への心構えを 高める	大雨・洪水・土砂災害 注意警報	注意 避難注意情報

警戒レベルと内容 気象庁HPより

防災いろはのコーナー

思いつきの防災いろはは当法人のHP上でご覧いただけます。すでに「思いつきの防災いろは2」はすべてHP上に掲載いたしました。分割して掲載した「い〜京」が一括してご覧いただけます。
11月21日からは「思いつきの防災いろは3」シリーズを毎週HPに掲載しております。これまで、「い〜う」まで掲載しました。新年からも継続して4話ずつ掲載の予定です。

内容の詳細は下記のQRコードでHPのメニューで「思いつきの防災いろは」からご覧いただけます。



発行；認定特定非営利活動法人 防災・減災サポートセンター
住所；宮城県富谷市ひより台2-11-3
電話；022-358-9151
URL；<https://bousai-support.or.jp/>
メール；info@bousai-support.or.jp

防災Q&A100 好評売り出し中！ お求めは金港堂仙台市内各書店、 ネット、直接当NPOへ(定価1,100円 【税込み】)

災害列島に生きるものにとって、自然災害は避けられない宿命ではありますが、みんなが情報を共有することが防災の基本でもあると思います。
(はじめに
より)



会員募集

特定非営利活動法人防災・減災サポートセンターでは、一緒に活動していただける会員を募集しております。また、いろいろな制約で一緒に活動できない方の賛助会員としての参加も大歓迎です。現在の会員数は、正会員19名、賛助会員21名、賛助法人2社です。正会員と賛助会員の会費は同額です。

私たちは、「自然災害による被災ゼロを目指して」活動を続けています。宮城県内はもちろん、東北や北関東まで防災出前講座をしております。地域防災マップ（マイマップ）をつくりながら、地域の課題を地域の方が解決していくお手伝いをさせていただいております。このような活動をご理解いただき、賛同していただける方のご参加をお待ちしております。

年会費 3,000円 (入会金なし)

お申込み方法

①入会申込書に必要事項を記入して、事務局にメールまたは郵送などでお送りください。
(入会申込書は、下記のURLの「入会ご案内とご寄付のお願い」の「入会ご案内」の様式、内容でお願い致します)

送付先：下記住所、メールへお願いいたします。

